

1 置床の準備

(1) 地温の確保

育苗ハウスは、早めにビニールをかけて土壌を十分乾燥させ、地温の上昇をはかりましょう。

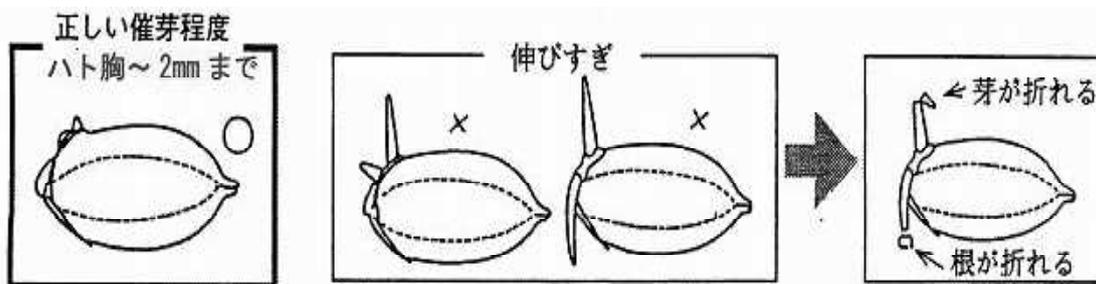
(2) 整地

置床の整地不良により、育苗箱との密着が悪いと、床土の乾湿により苗の生育がムラとなります。碎土を丁寧にいきましょう。

2 発芽を均一にするためには

良い苗づくりには発芽を揃えることが重要です。基本技術を励行しましょう。

- (1) 種籾袋には袋の5～7割程度の籾量にとどめる。入れ過ぎに注意！
- (2) 種子消毒する場合は、使用基準を厳守する。
- (3) 種子浸漬の日数…平均水温11～12℃で6～7日（直射日光を当てない）
種子消毒後の浸種は、2日間水替えを行わない。
その後は酸素供給のため、1～2日に1回水を入れ替える。
- (4) 催芽の日数…温度は32℃に保ち、20時間前後で仕上げる
催芽の長さはハト胸から2mmまでとし、必ず催芽状況を確認する！



3 「は種量」を守りましょう

- (1) 催芽した種籾を均一には種するため、籾表面の余分な水分を取り除く。
- (2) は種前に必ずカラ箱には種し、軽量カップ等で「は種量」の調整を行う。
籾の乾燥程度によって「は種量」は変わるので、は種機の調整を行う。
- (3) 床土、覆土量の調整を適確に行う。

表 育苗様式とは種量

	中 苗		成 苗
	箱マット	型 枠	みのる成苗ポット
催芽籾 (ml/箱)	150～200	150	70程度